巻 頭 言

産学官連携と技術士の新たな役割

㈳日本技術士会北海道支部　道南技術士会　代表幹事
技術士（建設／上下水道／総合技術監理部門）
布　村　重　樹

現在の日本経済は戦後最長の景気拡大の中にあり上場企業の多くは史上最高益を更新しているという。一方地方は夕張市の財政破綻を例に出すまでもなく大変厳しい経済状況になっており、地域間格差は益々拡大して行く傾向にある。有効求人倍率を見ても平成19年当初で全国平均は1.06であるが北海道は0.66と景気の地域間格差もはっきりと数字に表れている。

私が住む函館市も2年前に周辺町村と合併したが、現在の総人口は合併時点よりも約5,700人減少し、生産年齢人口に至っては約7,600人も減少している。雇用環境の悪化により若年層の人口流出傾向が顕著になっているのである。この状況を改善しなければ高齢化が加速度的に進み自治体の財政状況は益々悪化し、地域経済も破綻しかねないと考えられる。このような状況は函館市のみならず地方の多くの自治体が直面している課題であろう。

雇用環境を改善するためには既存産業の振興・改革と共に新たな地域産業を産み出さなければならない。そのためには産学官連携が重要なキーワードとなっている。北海道には豊かな自然、清涼な環境、広大な土地そして良質なブランドイメージと言った多くの資源がある。地域に埋もれている資源を発掘し、研究開発、事業化するために地域の知恵と資本を結集して行かなければならないだろう。

新たな産業を本格的に事業化するためには、市場評価と研究開発の課題を整理し、実現までのプロセスとタイムスケジュール、コスト評価を明確にしなければならない。それらを論理的に誰でも理解できるよう説明できなければ資本投下もできない。考えてみるとこれは技術士の最も得意とする分野ではないだろうか。産学官連携のコーディネーターは技術士の新たな活躍の場とも考えられる。

函館でも道南技術士会の会員が産学官連携プロジェクトの中核メンバーとして活躍している。未来大学の長野先生は函館国際水産海洋都市構想の部会長として街創りのマスタープランを作成している。都市エリア産学官連携促進事業ではガゴメ昆布とイカの高付加価値化に取り組んでいるが、太宰技術士がコーディネーター、吉岡技術士はイカの鮮度保持技術開発に活躍している。またNPO北海道魚道研究会、はこだて観光情報学研究会、MHA（水素吸蔵合金による動力）研究会、ガゴメ昆布ブランド化研究会など未来の新たな産業起こしのためのプロジェクトや研究会が技術士を中心に運営されている。

新たな課題も見えてきている。良い商品が開発できたからといって売れる訳ではない。都市エリア研究でガゴメ昆布の機能性を研究する中で癌細胞の死滅作用が既存の抗癌剤に負けない位の機能性があると解明されてきているが、開発された商品のPRに今一歩結び付かず、販売は思ったように増えていないと聞く。技術だけでなく、マーケッティングや広告宣伝の重要性を改めて認識させられている。

技術士が産学官連携コーディネーターとして更に活躍の場を広げ存在感を増す為には、今後新たにマーケッティング業界との連携やそのノウハウの蓄積も重要となってくるだろう。技術士が地域活性化のキーマンとなる時代がすぐそこまで来ている。